

研 究 業 績 一 覧

2009年1月～12月

研究業績を学科別に氏名の五十音順に掲載し、著書、論文、翻訳、調査報告等は、【「書名または論文名」
共著者名、発行所、雑誌名巻号、pp.〇〇-△△】を、学会発表、講演、公演、展覧会等は、【発表者・演者・
出品者名、題名、学会・主催団体名、開催場所、発表月】を記載する。

学 長

杉 山 道 雄 (SUGIYAMA, Michio)

- <著書>「スローフードと地産地消 ― 岐阜の食文化形成 ―」『岐阜新聞社』pp.1-161, 3月.
- <翻訳>「EUにおける鶏卵生産と貿易の変容」ハンス・ウイルヘルム・ヴィントホルスト著、大島俊三・鷺見孝子共訳、『畜産の研究』63-3, 3月号, pp. 325-329.
- <翻訳>「世界における鶏卵生産と貿易の近年の態様 ― 地域ごとの状況報告 (1)」ハンス・ウイルヘルム・ヴィントホルスト著、大島俊三・平光美津子・山内加代子共訳、『畜産の研究』63-5, 5月号, pp. 505-511.
- <翻訳>「世界における鶏卵生産と貿易の近年の態様 ― 地域ごとの状況報告 (2)」ハンス・ウイルヘルム・ヴィントホルスト著、大島俊三・平光美津子・山内加代子共訳、『畜産の研究』63-6, 6月号, pp. 603-610.
- <翻訳>「牛肉生産における動向は地域的な差が大きい ― 地域的構造の分析 ―」ハンス・ウイルヘルム・ヴィントホルスト著、大島俊三・平光美津子・鷺見孝子共訳、『畜産の研究』63-7, 7月号, pp. 707-714.
- <翻訳>「堅調な豚肉生産の動向 ― 地域別構造の分析 ―」ハンス・ウイルヘルム・ヴィントホルスト著、大島俊三・平光美津子・鷺見孝子共訳、『畜産の研究』63-8, 8月号, pp. 793-800.
- <翻訳>「世界における家禽肉生産と貿易の動向 ― 地域別構造分析 ―」ハンス・ウイルヘルム・ヴィントホルスト著、大島俊三・平光美津子・鷺見孝子共訳、『畜産の研究』63-9, 9月号.
- <翻訳>「世界鶏卵産業における北米自由貿易協定の役割 (1)」ハンス・ウイルヘルム・ヴィントホルスト著、大島俊三・平光美津子・鷺見孝子共訳、『畜産の研究』63-10, 10月号.
- <翻訳>「世界鶏卵産業における北米自由貿易協定の役割 (2)」ハンス・ウイルヘルム・ヴィントホルスト著、大島俊三・平光美津子・鷺見孝子共訳、『畜産の研究』63-11, 11月号.
- <翻訳>「ブラジル、ブロイラー肉の輸出巨大国 ― 輸出と貿易流通における動向分析 ―」ハンス・ウイルヘルム・ヴィントホルスト著、大島俊三・平光美津子・鷺見孝子共訳、『畜産の研究』63-12, 12月号, pp. 1-7.
- <小論>「Egg industry-Production, Price and Chickplacement in Japan」『International Egg Market Review 2009 edition』International Egg Commission, 2009 October.
- <小論>「岐阜県海なし県海づくり大会に想う」『フードシステムニュース』日本フードシステム学会, p.5, 10月.
- <講演>「大野町のスローフード. ― 大野町農業の現状と改善方向」, 大野町産業振興会, 3月.
- <講演>「岐阜の地産地消と活性化」, 1・八会主催, 1・八会通信, 5月.
- <講演>「スローライフと飛騨の活性化」, 岐阜県経済同友会, 7月.
- <講演>「地産地消の新基軸 ― 食卓からの農業再編」, 岐阜県農業教育研究会, 8月.
- <雑論>「川端康成と級友月地冬二」『篝火の像』川端康成「篝火像」建立委員会, p.21. 11月.
- <雑論>「楽 ― 頑張ろうから気楽にこう “take it easy” について」『連心通心』, 第25号, 12月.

健康福祉学部総合福祉学科

神 谷 和 孝 (KAMIYA, Kazutaka)

- <論文>「後期高齢者医療制度に関する一考察」『東海学院大学紀要』第2号, pp.121-126.
- <社会活動>「各務原市個人情報保護審議会副会長」.

小 高 良 友 (KODAKA, Yoshitomo)

＜論文＞「結婚したゲイ男性から見える光景」『東海学院大学紀要』第2号, pp.61-66.

岡 本 真理子 (OKAMOTO, Mariko)

＜講演＞「世界の景観から学ぶ, むらづくり・まちづくり」岡本真理子, 農地・水・環境保全知多地域協議会, 半田勤労福祉会館, 2月.

＜講演＞「子どもとすまいー日本の子ども, 世界の子どもー」岡本真理子, 東海学院大学公開講座2009, 東海学院大学, 11月.

＜建築作品＞「N邸新築工事基本設計」, N氏, 名古屋市, 木造2階207㎡.

＜建築作品＞「デイサービス事業所改修」, (特)介護サービスS, 名古屋市, 改修部分139㎡.

＜社会活動＞開発審査会会長, 屋外広告物審査会会長, 景観審議会副会長, 建築士審査会, 環境影響評価審査会 (以上岐阜県), 建築審査会副会長, 景観審議会 (以上各務原市), 環境審議会自然部会, 環境影響評価審査会 (以上愛知県) など.

蘭 和 真 (ARARAGI, Kazuma)

＜著書＞「Active Sports 総合版2009」長谷川聖修 他『大修館書店』, pp.239-248.

＜著書＞「Active Sports 女子版2009」長谷川聖修 他『大修館書店』, pp.255-264.

桑 原 信 治 (KUWABARA, Nobuharu)

＜講習会＞「平成21年度国体啓発事業バレーボール指導者講習会」講師, 安八町体育指導委員会・安八町教育委員会, 安八町総合体育館, 12月.

＜競技力発表会＞「西日本大学女子バレーボール選手権大会, ベスト16入賞」監督, 西日本大学バレーボール連盟, 広島県広島市, 6月.

＜競技力発表会＞「西日本大学5学連選抜対抗戦, 第3位」団長, 西日本大学バレーボール連盟, 福岡県, 8月.

＜競技力発表会＞「東海大学女子バレーボール大会秋季大会, 第3位」監督, 東海大学バレーボール連盟, 愛知県, 9月.

＜競技力発表会＞「第64回国民体育大会バレーボール競技, 第7位入賞」総監督, 日本体育協会・文部科学省・日本バレーボール協会, 新潟県小千谷市, 10月.

＜社会活動＞「平成21年度国体啓発事業バレーボール教室」主任講師, 安八町体育指導委員会・安八町教育委員会, 安八町総合体育館, 12月.

＜その他＞「東海北陸ブロック介護教員研修会(岐阜)」岐阜県実行委員会 (委員長), 日本介護福祉士養成校施設協会, グランパレホテル, 9月.

伊 藤 秀 樹 (ITO, Hideki)

＜著書＞「子ども家庭福祉の扉」水田和江, 中野菜穂子共編『学文社』, pp.47-60.

＜論文＞「対人援助に向けた利用者の生活理解と今後の実践課題」伊藤秀樹, 田中朋也 (共著者)『福祉倫理学術研究会論集』第1巻第1号, pp.15-21.

＜ラジオ教材収録＞「福祉専門職養成の実態と展望」三好禎之, 伊藤秀樹, 工藤明人『放送大学大学院ラジオ科目「現代の福祉政策」のなかのーコマ』.

＜講演＞「東郷町健康づくり～介護予防の視点から～」伊藤秀樹, 東郷町施設サービス株式会社, 東郷町, 東郷町イーストプラザいこまい館, 5月、7月.

柴 崎 建 (SHIBAZAKI, Ken)

＜論文＞「地域福祉計画策定における諸課題について」『東海学院大学紀要』第2号, pp.127-132.

＜社会活動＞「各務原市地域福祉計画策定委員会市民グループ会議座長」.

＜社会活動＞「各務原市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会副委員長」.

大 山 勉 (OYAMA, Tsutomu)

- ＜調査報告＞「精神保健医療福祉の改革ビジョンの成果に関する研究 精神保健医療福祉の改革の推進に関する研究 —「改革ビジョン」を実現する地域システムのモニタリングについて—」竹島正, 伊藤真人, 大山勉, 大嶋正浩, 助川征雄, 藤田大輔 (共著者)『厚生労働科学研究「精神保健医療福祉の改革ビジョンの成果に関する研究」 国立精神・神経センター精神保健研究所』平成20年度 総括・分担研究報告書, pp.69-80.
- ＜調査報告＞「精神障害者の就労を促進する要因についての研究 — 国際生活機能分類 (ICF) による障害定義に基づく調査からの分析 —」大山勉, 中川正俊, 木村真理子, 石田賢哉 (共著者)『みずほ福祉助成財団補助助成金による調査研究報告書 川崎精神障害者就労促進研究会』平成19年度助成, 3月, pp.1-97.
- ＜学会発表＞「精神障害当事者と支援者によるアンケート調査の実施報告」大山勉, 中川正俊, 石田賢哉, 日本職業リハビリテーション学会, 神戸, 8月.
- ＜学会発表＞「精神症状や生活技能が精神障害者の就労に与える影響についての研究」大山勉, 日本心理臨床学会, 東京, 9月.

遠 藤 幸 子 (ENDO, Sachiko)

- ＜論文＞「高齢者施設におけるホスピス・緩和ケアの可能性 — 日本的な癒しのある終末期の生活 —」『東海学院大学紀要』第2号, pp.47-56.
- ＜学会発表＞「学生の看取り体験を支える要因 — 介護実習における学生の学びと指導者の認識 —」, 第33回日本死の臨床研究会全国大会, 名古屋国際会議場, 11月.
- ＜講演＞「介護技術 移動の援助 「歩く」 ことについて考える」, 松山市訪問介護職員研修会, 松山市宅老所あんき, 9月.
- ＜試験官＞「介護福祉士国家試験実地試験委員」, 財団法人社会福祉振興・試験センター, 名古屋, 3月.

阿 部 俊 彦 (ABE, Toshihiko)

- ＜論文＞「精神障害者の生活技法」『参加と批評』3, pp.113-137.
- ＜論文＞「社会福祉援助技術と精神障害者施設の実践」『東海学院大学紀要』2, pp.9-16.
- ＜論文＞「精神障害者のコミュニケーションと自立」『東海学院大学紀要』2, pp.17-24.

森 川 洋 (MORIKAWA, Hiroshi)

- ＜著書＞「保育士合格テキスト 社会福祉 児童福祉」玉井美知子, 阿久津撰, 高玉和子 (共著者)『学事出版』, pp.10-52.59
- ＜論文＞「子育て支援における母親クラブと児童館の役割に関する研究 (3) — 母親クラブの活性化と普及における児童館の役割」齊藤進, 小山修, 中村敬, 山口忍, 臺有桂ほか (共著者)『日本子ども家庭総合研究所紀要』45, pp.171-193.
- ＜学会発表＞「就労移行支援事業への業務移行における支援の実践過程-浮沈図調査票を用いた職員への面接を通して」黒岩直人, 黒岩美喜 (共著者), 日本職業リハビリテーション学会第37回大会, 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス, 8月.
- ＜学会発表＞「障害を持つ人の就労支援機関における支援者の実践過程の検討」黒岩直人, 黒岩美喜, 日本保健福祉学会第22回学術集会, 東北福祉大学ステーションキャンパス, 11月.
- ＜学会発表＞「就労支援機関における支援者の障害を持つ訓練生に対する価値変容過程」, 日本ヘルスプロモーション学会第7回学術大会, 東洋大学朝霞キャンパス, 12月.
- ＜社会活動＞「健康社会学研究会」運営委員 (事務局兼務).
- ＜社会活動＞「日本子ども家庭総合研究所」嘱託研究員 (母親クラブと児童館研究班).
- ＜その他＞「東海北陸ブロック介護教員研修会」岐阜県開催地実行委員 (事務局兼務), 日本介護福祉士養成校施設協議会, ホテルグランパレ, 9月.

芦 田 麗 子 (ASHIDA, Reiko)

- ＜論文＞「社会福祉政策における低所得者への「就労支援サービス」に関する問題点」『東海学院大学紀要』第2号（通巻28号），pp.1-8.
- ＜その他＞「低所得者の就労支援サービス」渋谷哲編『新社会福祉士養成課程対応 低所得者の支援と生活保護制度』，pp.188-199.

木 戸 美 代 (KIDO, Miyo)

- ＜講演＞「介護福祉士国家試験に関する介護技術講習会・主任指導者」，東海学院大学，東海学院大学，5月～8月.
- ＜講演＞「訪問介護員養成講座2級課程（介護技術）」，山県市社会福祉協議会，山県市社会福祉協議会，7月、10月.
- ＜講演＞「訪問介護員養成講座2級課程（訪問介護員の職業倫理・訪問介護サービス概論）」，飯原学園，飯原学園，7月，10月.
- ＜試験官＞「介護福祉士国家試験実地試験委員」，財団法人社会福祉振興・試験センター，同朋高等学校，3月.
- ＜社会活動＞「岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価調査者」，岐阜県福祉サービス第三者評価推進会議.

岡 本 香 (OKAMOTO, Kaori)

- ＜学会発表＞「世代の違いによるコミュニケーション観の差異の検討」岡本香，日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回大会合同大会，大阪大学，10月.

健康福祉学部食健康学科

大 森 正 英 (OMORI, Masahide)

- ＜論文＞「地域高齢者の健康生活調査について・第1報 調査対象者の健康状態と活動能力の実態」水野かがみ，石原多佳子，野口典子，折居忠夫，本多広国，水野敏明，大森正英（共著者）『中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要』第10号，pp.151-157.
- ＜学会発表＞「高齢者の健康状態の経年変化について」大森正英，水野かがみ，田久浩志，石原多佳子，水野敏明，宮田延子，山澤和子，森基要，第55回東海公衆衛生学会学術大会，名古屋市立大学医学部，7月.
- ＜学会発表＞「高齢者の満足度の経年変化について」本多広国，水野かがみ，田久浩志，石原多佳子，水野敏明，山崎旭男，古賀裕子，大森正英，第55回東海公衆衛生学会学術大会，名古屋市立大学医学部，7月.
- ＜学会発表＞「高齢者の活動能力の経年変化について」水野かがみ，田久浩志，石原多佳子，水野敏明，棚橋亜矢子，大森正英，第55回東海公衆衛生学会学術大会，名古屋市立大学医学部，7月.
- ＜学会発表＞「高齢施設入所者に対する音楽療法の有効性（その2）」大森由美子，森玲子，山田光男，水谷由賀子，永田知里，大森正英，第55回東海公衆衛生学会学術大会，名古屋市立大学医学部，7月.
- ＜学会発表＞「Surveylance study on health status and life habits of elders living in rural area (1) Changes of health status in three years」Masahide Omori, Kagami Mizuno, Hiroshi Takyu, Takako Ishihara, Toshiaki Mizuno, Motome Mori, Satoshi Narita, Asao Yamazaki, The 13th scientific meeting of Korea-Japan Health Education Symposium/The 57th scientific meeting of Japanese Society of Education and Health Science, Kyung Hee University, Suwon, Korea, 8月.
- ＜学会発表＞「Surveylance study on health status and life habits of elders living in rural area (2) Changes of life satisfaction in three years」Hirokuni Honda, Kagami Mizuno, Hiroshi Takyu, Takako Ishihara, Toshiaki Mizuno, Miyo Narita, Masahide Omori, The 13th scientific meeting of Korea-Japan Health Education Symposium/The 57th scientific meeting of Japanese Society of Education and Health Science, Kyung Hee University, Suwon, Korea, 8月.
- ＜学会発表＞「Surveylance study on health status and life habits of elders living in rural area (3) Changes of physical functions in three years」Kagami Mizuno, Hiroshi Takyu, Takako Ishihara,

- Toshiaki Mizuno, Mitsuo Otsuka, Mashide Omori, The 13th scientific meeting of Korea-Japan Health Education Symposium/The 57th scientific meeting of Japanese Society of Education and Health Science, Kyung Hee University, Suwon, Korea, 8月.
- <学会発表>「Effects of music therapy to persons of advanced age」Yumiko Omori, Yutaka Kawaguchi, Masahide Omori, The 13th scientific meeting of Korea-Japan Health Education Symposium/The 57th scientific meeting of Japanese Society of Education and Health Science, Kyung Hee University, Suwon, Korea, 8月.
- <学会発表>「地域高齢者の健康状態の経年変化(1) —主観的健康度—」大森正英, 水野かがみ, 石原多佳子, 水野敏明, 森 基要, 第68回日本公衆衛生学会総会, 奈良, 10月.
- <学会発表>「地域高齢者の健康状態の経年変化(2) —生活満足度との関連—」本多広国, 水野かがみ, 石原多佳子, 水野敏明, 山崎旭男, 大森正英, 第68回日本公衆衛生学会総会, 奈良, 10月.
- <学会発表>「地域高齢者の健康状態の経年変化(3) —活動能力との関連—」水野かがみ, 石原多佳子, 水野敏明, 山澤和子, 大森正英, 第68回日本公衆衛生学会総会, 奈良, 10月.
- <学会発表>「介護面から見た音楽療法の有効性 —老人保健施設入所者を対象として—その(2)」大森由美子, 宮田延子, 大森正英, 第68回日本公衆衛生学会総会, 奈良, 10月.
- <研究発表>「高齢者の健康と日常生活」, 東海学院大学・東海学院大学短期大学部学術交流集会, 東海学院大学, 10月.
- <その他>「お酒の科学」, 東海学院大学短期大学部生涯学習センター秋講座, 東海学院大学短期大学部, 11月(3回).

山 澤 和 子 (YAMAZAWA, Kazuko)

- <著書>「Social Psychology New Research (Chapter 8 :Effect of Gender-Related Images on Beverages Intake for Young Japanese Mens and Women)」Editor : Ellen P. Lamont 『Nova Science Publishers, Inc.』, pp.147-164.
- <論文>「日本におけるバイオ燃料生産の意義と役割」杉山道雄, 山澤和子(共著者)『東海学院大学研究紀要』第2号, pp.91-96.
- <調査報告>「子どもと一緒にスローフードを見直そう」を終えて」鷺見孝子, 尾木千恵美, 内田美佐子, 山内加代子, 平光美津子, 杉山道雄(共著者)『地域食育研究』創刊号, pp.78-87.
- <学会発表>「幼稚園児(5歳児)の野菜栽培体験と「食生活」状況の変化」山澤和子, 原弓貴, 茶座伊都子, 古賀裕子, 棚橋亜矢子, 杉山道雄, 日本食育学会総会学術大会, 実践女子大学, 6月.
- <学会発表>「高齢者の健康状態の経年変化について」大森正英, 水野かがみ, 田久浩志, 石原多佳子, 水野敏明, 宮田延子, 山澤和子, 森基要, 第55回東海公衆衛生学会学術大会, 名古屋市立大学, 7月.
- <学会発表>「高齢者の健康状態の経年変化(3) 活動能力との関連」水野かがみ, 石原多佳子, 水野敏明, 山澤和子, 大森正英, 第68回日本公衆衛生学会総会, 奈良県文化会館, 10月.
- <講演>「肉の良さ再発見そして大切にしよう」山澤和子, JA飛騨ミート食肉安全フォーラム・2009, 飛騨農業協同組合, 8月.
- <講演>「私たちは、なぜ味がわかるの??」山澤和子, 羽島市立中島小学校 食育講演会, 羽島市中島小学校, 12月.

寺 嶋 昌 代 (TERAJIMA, Masayo)

- <論文>「繊毛虫Blepharisma japonicumのもつ色素ブレファリズミンの特性(1)」『東海学院大学紀要』第2号, pp.97-108.
- <学会発表>「生活習慣病予防のための行動変容支援とSATヘルスカウンセリング」, 第24回日本保健医療行動科学会, 神戸市, 6月.
- <講演>「血圧を下げるのにキク ダイエットと減塩のコツ」, 高血圧市民公開講座「ウデをまくろう, 岐阜! 高血圧に負けないために!」日本高血圧協会・日本高血圧学会, ノバルティスファーマ株式会社主催, 岐阜県医師会・オムロンヘルスケア株式会社後援, 岐阜市, 7月.

＜講演＞「本当の自分を知る－自分らしさとは何か、自分が本当にしたいことは何かを見つける」、平成21年度団塊世代のための市民講師養成講座『市民講師のスキル伝授します』、岐阜市生涯学習センター・岐阜市教育文化振興事業団主催、岐阜市、9月。

＜その他＞ ＜社会活動＞岐阜県内水面漁場管理委員会委員。

＜社会活動＞各務原市環境市民会議委員長。

＜社会活動＞岐阜県立岐阜高校評議員。

＜社会活動＞高血圧市民公開講座「ウデをまくろう、岐阜！高血圧に負けないために！」、プレイベント指導、高血圧の食事療法監修、パネルディスカッションパネラー、日本高血圧協会・日本高血圧学会、ノバルティスファーマ株式会社主催、岐阜県医師会・オムロンヘルスケア株式会社後援、岐阜市長良川国際会議場、7月18日。

＜その他＞ ＜社会活動＞学童保育所での食育活動および自然に親しむための科学プログラム(1) 7月28日。

学童保育所での食育活動および自然に親しむための科学プログラム(2) 8月5日。

学童保育所での食育活動および自然に親しむための科学プログラム(3) 8月20日。

堀 田 康 雄 (HOTTA, Yasuo)

＜論文＞「植物細胞の初期分化」『化学と薬学の教室』, No.160, pp. 21-23, 3月。

＜論文＞「肥満の細胞生物学」『化学と薬学の教室』, No.160, pp. 23-24, 3月。

＜論文＞「アルコールと細胞生物学」『化学と薬学の教室』, No.160, pp. 25-26, 3月。

＜論文＞「細胞分裂の研究のこれまでとこれから」『可視化技術の最前線』NPO法人：総合画像研究支援, 10月。

＜発表＞「規格外富有柿の利用」、第二回・規格外富有柿利用研究会、岐阜県大野町役場 2F, 9月。

＜発表＞「相同組換え開始酵素 Spo11 による新世代ゲノム加工」、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構・平成20年度終了課題事後評価（評価委員）。

＜社会活動＞新潟大学 超域研究機構運営委員会。

森 基 子 (MORI, Motoko)

＜講演＞「食生活の現状と食農教育の必要性」森 基子, JA 岐阜中央会, JA岐阜会館, 4月。

＜講演＞「賢い食事の選び方～食から健康を考える～」森 基子, 岐阜県健康長寿財団, シルバー大学講座, セラトピア土岐, 岐阜シンクタンク庁舎, 6月。

＜講演＞「食をめぐる課題と食事バランスガイドの活用について」森 基子, 静岡・愛知・岐阜・三重東海四県JA 中央会, JA 岐阜研修会館, 6月。

＜講演＞「食育を踏まえた保育」森 基子, 岐阜市保育協会年少部会, 岐阜市青少年会館, 8月。

＜講演＞「賢い食事の選び方～食から健康を考える～」森 基子, 岐阜県健康長寿財団, シルバー大学講座, 高山市民文化会館, 8月。

＜講演＞「子どもの食環境と食育」, 東海学院大学 公開講座, 図書館大セミナー室, 10月。

野 澤 義 則 (NOZAWA, Yoshinori)

＜著書＞「Handbook of Neurochemistry and Molecular Neurobiology : Phospholipid signaling and cell function」『Springer Publishers』, pp.297-314.

＜著書＞「脳内老化制御とバイオマーカー:基盤研究と食品素材 :ホルミシスを介した脳の老化制御」伊藤雅史『シーエムシー出版』, pp.89-97.

＜論文＞「Effects of sesquiterpene lactones on melanogenesis in mouse B16 melanoma cells」Ohguchi, K. 他5名（共著者）『Biol. Pharm. Bull.』32, pp.308-810.

＜論文＞「Association of genetic variants with chronic kidney disease in Japanese individuals」Yoshida, T. 他13名（共著者）『Clin. J. Amer. Soc. Nephrol.』434, pp.817-2040.

＜論文＞「Association of a polymorphism of the apolipoprotein E gene with chronic kidney disease in Japanese individuals with metabolic syndrome」Yoshida, T. 他12名（共著者）『Genomics』93,

pp.221-226.

- <論文> 「Association of polymorphisms of THBS2 and HSPA8 with hypertension in Japanese individuals with chronic kidney disease」 Oguri, M. 他10名 (共著者) 『Mol. Med. Rep.』 2, pp.205-211.
- <論文> 「Association of genetic variants with chronic kidney disease in Japanese individuals with type 2 diabetes mellitus」 Yoshida, T. 他10名 (共著者) 『Int. J. Mol. Med.』 23, pp.529-537.
- <論文> 「Intracellular glutathione regulates sesquiterpene lactone-induced conversion of autophagy to apoptosis in human leukemia HL60 cells」 Itoh, T. 他2名 (共著者) 『Anticancer Res.』 29, pp.1449-1458.
- <論文> 「Inhibitory effects of sesquiterpene lactones isolated from Eupatorium chinese L. on IgE-mediated degranulation in rat basophilic leukemia RBL-2H3 cells and passive cutaneous anaphylaxis reaction in mice」 Itoh, T. 他5名 (共著者) 『Bioorg. Medic. Chem.』 17, pp.3189-3197.
- <論文> 「Association of genetic variants with myocardial infarction in Japanese individuals with chronic kidney disease」 Fujimaki, T. 他12名 (共著者) 『Thromb. Haemost.』 101, pp.963-968.
- <論文> 「Association of candidate gene polymorphisms with chronic kidney disease in Japanese individuals with hypertension」 Yoshida, T. 他8名 (共著者) 『Hypertension Res.』 32, pp.411-418.
- <論文> 「Association of gene polymorphisms with chronic kidney disease in high-risk or low-risk subjects defined by conventional risk factors.」 Yoshida, T. 他10名 (共著者) 『Int. J. Mol. Med.』 23, pp.785-792.
- <論文> 「Effects of theaflavins on melanin biosynthesis in mouse B16 melanoma cells」 Yamaoka, Y. 他3名 (共著者) 『Biosci. Biotech. Biochem.』 73, pp.1429-1431.
- <論文> 「Association of genetic variants with chronic kidney disease in individuals with different lipid profiles」 Yoshida, T. 他10名 (共著者) 『Int. J. Mol. Med.』 24, pp.233-246.
- <論文> 「Metabolites of sesamin, a major lignan in sesame seeds, induce neuronal differentiation in PC12 cells through activation of ERK1/2 signaling pathway」 Hamada, N. 他8名 (共著者) 『J. Neur. Transm.』 116, pp.841-852.
- <論文> 「Association of a polymorphism of BCHE with ischemic stroke in Japanese individuals with chronic kidney disease」 Oguri, M. 他10名 (共著者) 『Mol. Med. Reports』 2, pp.779-785.
- <論文> 「Inhibitory effects of flavonoids isolated from Fragaria ananassa Duch on IgE-mediated degranulation in rat basophilic leukemia RBL-2H3」 Itoh, T. 他7名 (共著者) 『Bioorg. Med. Chem.』 17, pp.5374-5379.
- <論文> 「Association of genetic variants with myocardial infarction in Japanese individual with metabolic syndrome」 Oguri, M. 他10名 (共著者) 『Atherosclerosis』 206, pp.485-493.
- <論文> 「Identification of CELSR1 as a susceptibility gene for ischemic stroke Japanese individuals by a genome-wide association study」 Yamada, Y. 他11名 (共著者) 『Atherosclerosis』 207, pp.144-148.
- <論文> 「Sirtuin 1 overexpression mice show a reference memory deficit, but not neuroprotection」 Kakefuda, K. 他9名 (共著者) 『Biochem. Biophys. Res. Commun.』 387, pp.784-788.
- <論文> 「Association of gene polymorphisms with chronic kidney disease in Japanese individuals」 Yoshida, T. 他9名 (共著者) 『Int. J. Mol. Med.』 24, pp.539-547.
- <論文> 「Association of genetic variants with myocardial infarction in individuals with or without hypertension or diabetes mellitus」 Yoshida, T. 他9名 (共著者) 『Int. J. Mol. Med.』 24, pp.701-709.
- <総説> 「ファイトケミカルと細胞シグナル伝達 — ホルミシス, ゼノホルミシス仮説からみた考察」 伊藤雅史 『基礎老化研究』 33, pp.9-12.
- <学会発表> 「Activation of mTOR/S6K1 signaling prevents melanofenesis: a new mechanism of action for skin whitening agents」 Iddamalgoda, A., Ito, K., Ohguchi, K., Nozawa, Y. (共著者), In-Cosmetics, Munich, 4月.
- <学会発表> 「Genetic risk for myocardial infarction in Japanese individuals with or without chronic

- kidney disease」Fujimaki, T. 他12名, American Heart Association, Oakland, 11月.
- <学会発表>「Prediction of genetic risk for myocardial infarction in Japanese individuals」Fujimaki, T. 他12名, American Heart Association, Oakland, 11月.
- <学会発表>「Genetic variants that confer susceptibility to myocardial infarction differ among individuals with or without hypertension for diabetes mellitus」Oguri, M. 他13名, American Heart Association, Oakland, 11月.
- <学会発表>「Assessment of genetic risk for hypertension in Japanese individuals」Yamamura, Y. 他13名, American Heart Association, Oakland, 11月.
- <学会発表>「新規kavalactone誘導体によるNrf2/AREシステム活性化を介した抗酸化酵素の発現誘導」田中亜莉沙 他4名, 日本薬学会 129年会, 京都, 3月.
- <学会発表>「セサミン代謝物によるPC12細胞の神経細胞分化誘導」浜田奈々子 他8名, 日本薬学会 129年会, 京都, 3月.
- <学会発表>「BMP-2誘導マウス前駆骨芽細胞の分化調節に関わるmicroRNAの同定」伊藤智広 他2名, 日本農芸化学会2009年度大会, 福岡, 3月.
- <学会発表>「セサミン代謝物はERK1/2の活性化を介してPC12細胞の神経細胞分化を誘導する」浜田奈々子 他8名, 第32回日本基礎老化学会, 横浜, 6月.
- <学会発表>「セサミン代謝物によるPC12細胞の分化誘導」浜田奈々子 他8名, 第3回高次機能性食品研究会, 岐阜, 7月.
- <学会発表>「MicroRNA-148aがホルモン抵抗性前立腺癌細胞の表現型に及ぼす影響」藤田泰典 他4名, 第82回日本生化学会大会, 神戸, 10月.
- <学会発表>「ヒト真皮線維芽細胞のマトリックスメタロプロテアーゼ産生におけるSIRT1の関与」大口健司 他2名, 第82回日本生化学会大会, 神戸, 10月.
- <学会発表>「柿果皮に含まれる真皮マトリックスメタロプロテアーゼ産生阻害物質の探索」那須美紀 他4名, 日本薬学会東海支部学術大会, 四日市, 11月.
- <学会発表>「インド産 *Vateria indica* 葉部のスチルベンオリゴマーの構造」増田雄一 他8名, 日本薬学会東海支部学術大会, 四日市, 11月.
- <講演>「柿の成分と生理機能」, 東海学院大学地域食育サポートセンター・第三回フォーラム (岐阜の「柿」のすばらしさを知り抜く), 東海学院大学, 11月.
- <講演>「ビタミンと三大栄養素」, 岐阜県栄養士会生涯学習講座, アピ長良川リサーチセンター, 10月.
- <研究発表>「酸化ストレスと栄養-ファイトケミカルを中心に」, 東海学院大学・東海学院大学短期大学部学術交流集会, 東海学院大学, 10月.
- <その他>「国際医真菌学会 (ISHAM) 副会長として第17回国際医真菌学会を開催」, 東京, 5月.

平 光 美津子 (HIRAMITSU, Mitsuko)

- <論文>「クラスアワーを活用した『栄養士校外実習の事前・事後指導』の実践報告」尾木千恵美, 鷺見孝子, 山内加代子, 内田美佐子, 棚橋亜矢子, 古賀裕子(共著者)『東海学院大学短期大学部紀要』, 第35号, pp. 77-86.
- <論文>「『子どもと一緒にスローフードを見直そう』を終えて」鷺見孝子, 尾木千恵美, 内田美佐子, 山内加代子, 古賀裕子, 山澤和子, 杉山道雄(共著者)『東海学院大学短期大学部紀要』, 第35号, pp. 65-75.
- <学会発表>「学内実習からみた食事摂取状況調査(10割法)についての一考察」尾木千恵美, 内田美佐子, 第17回岐阜県栄養改善学会, 岐阜市, 2月.
- <学会発表>「栄養士養成課程の学生および一般者における『食事バランスガイド』の認知・理解度の実態について」尾木千恵美, 内田美佐子, 第56回日本栄養改善学会学術総会, 札幌コンベンションセンター, 札幌市, 9月.
- <その他>「2009年度 社団法人岐阜県栄養士会 研究教育協議会 事業『2009年度臨地・校外実習～指導者による実践事例～』」石見百恵, 高木瞳, 田中恵子, 土屋ひろ子(共著者), (社)岐阜県栄養士会研究教育栄養士協議会発行, pp. 1-36, 8月.

＜社会活動＞岐阜県栄養士会生涯学習研修会新人研修講師，（社）岐阜県栄養士会，岐阜聖徳学園大学短期大学部，岐阜市，7月。

尾 木 千恵美 (OGI, Chiemi)

＜学会発表＞「学内実習からみた食事摂取状況調査（10割法）についての一考察」内田美佐子，平光美津子，第17回岐阜県栄養改善学会，岐阜聖徳学園大学短期大学部，2月。

＜学会発表＞「栄養士養成課程の学生および一般者における「食事バランスガイド」の認知・理解度の実態について」内田美佐子，平光美津子，第56回日本栄養改善学会学術総会，札幌コンベンションセンター，9月。

＜社会活動＞平成21年度介護予防従事者研修「栄養改善」講師，岐阜県健康福祉部高齢福祉課，テクノプラザ，11月。

＜社会活動＞「きのこ料理教室」，岐阜県健康キノコ振興会，東海学院大学短期大学部，12月。

鷺 見 孝 子 (SUMI, Takako)

＜報告文＞「「子供と一緒にスローフードを見直そう」を終えて」鷺見孝子，尾木千恵美，内田美佐子，山内加代子，古賀裕子，平光美津子，山澤和子，杉山道雄（共著者）『東海学院大学短期大学部紀要』第35号，pp. 65-75。

＜報告文＞「クラスアワーを活用した「栄養士校外実習の事前・事後指導」の実線報告」平光美津子，尾木千恵美，鷺見孝子，山内加代子，内田美佐子，棚橋亜矢子，古賀裕子（共著者）『東海学院大学短期大学部紀要』第35号，pp. 77-86。

＜報告文＞「親子クッキング教室NPO法人地域と協同の研究センター委託研究「子供と一緒にスローフードを見直そう」を終えて」鷺見孝子，尾木千恵美，内田美佐子，山内加代子，古賀裕子，平光美津子，山澤和子，杉山道雄（共著者）『東海学院大学地域食育サポートセンター・地域食育研究』創刊号，pp. 78-87。

山 澤 広 之 (YAMAZAWA, Hiroyuki)

＜学会発表＞「昆虫の性フェロモンの研究 その2」山澤広之，東海学院大学・東海学院大学短期大学部 学術交流集会 2009，東海学院大学，10月。

山 内 加代子 (YAMAUCHI, Kayoko)

＜論文＞「「子どもと一緒にスローフードを見直そう」を終えて」鷺見孝子，尾木千恵美，内田美佐子，山内加代子，古賀裕子，平光美津子，山澤和子，杉山道雄（共著者）『東海学院大学短期大学部』紀要第35号，pp. 65-75。

＜論文＞「クラスアワーを利用した「栄養士校外実習の事前・事後指導」の実践報告」平光美津子，尾木千恵美，鷺見孝子，山内加代子，内田美佐子，棚橋亜矢子，古賀裕子（共著者）『東海学院大学短期大学部』紀要第35号，pp. 77-86。

＜翻訳＞「世界における鶏卵生産と貿易の近年の様態地域ごとの状況報告（1）」ハンス・ウインヘルム・ヴィントホルスト著，杉山道雄，大島俊三，平光美津子，山内加代子 訳『畜産の研究』，第63巻第5号。

＜翻訳＞「世界における鶏卵生産と貿易の近年の様態地域ごとの状況報告（2）」ハンス・ウインヘルム・ヴィントホルスト著，杉山道雄，大島俊三，平光美津子，山内加代子 訳『畜産の研究』，第63巻第6号。

＜その他＞「各務原市フードフェスティバル出展」，各務原市観光課，岐阜県各務原市，各務原市民公園，4月11日，12日。

棚 橋 亜矢子 (TANAHASHI, Ayako)

＜論文＞「クラスアワーを利用した「栄養士校外実習の事前・事後指導」の実践報告」平光美津子，尾木千恵美，鷺見孝子，山内加代子，内田美佐子，棚橋亜矢子，古賀裕子（共著者）『東海学院大学 短期大学部』紀要第35号，pp.77-86。

＜学会発表＞「高齢者の活動能力の経年変化について」水野かがみ（中部学院大学），田久浩志（中部学院大学），石原多佳子（岐阜大学），水野敏明（中日本自動車短期大学），棚橋亜矢子，大森正英（東海学院大学バイオサイエンス研究センター），東海公衆衛生学会，第55回東海公衆衛生学会学術大会，愛知県 名古屋市立大学 医学部，7月。

＜その他＞「各務原市フードフェスティバル出展」，各務原市観光課，岐阜県各務原市，各務原市民公園，4月11日，12日。

内 田 美佐子 (UCHIDA, Misako)

- ＜論文＞「子どもと一緒にスローフードを見直そう」を終えて」鷺見孝子，尾木千恵美，山内加代子，古賀裕子，平光美津子，山澤和子，杉山道雄（共著者）『東海学院大学短期大学部紀要』第35号，pp.65-75.
- ＜論文＞「クラスアワーを活用した「栄養士校外実習の事前・事後指導」の実践報告」平光美津子，尾木千恵美，鷺見孝子，山内加代子，棚橋亜矢子，古賀裕子（共著者）『東海学院大学短期大学部紀要』第35号，pp.77-86.
- ＜学会発表＞「栄養士養成課程の学生および一般者における「食事バランスガイド」の認知・理解度の実態について」尾木千恵美，平光美津子，第56回日本栄養改善学会学術総会，札幌市，札幌コンベンションセンター，9月.

人間関係学部心理学科

寺 田 道 夫 (TERADA, Michio)

- ＜著書＞「学校における不登校への対処Ⅳ」岐阜県精神保健福祉協会教育家庭部会専門委員会『心の健康』第24号，pp.11-15.
- ＜論文＞「不登校への早期対処 V」『東海学院大学紀要』第2号，pp.133-148.
- ＜論文＞「不登校への早期対処 VI」『東海心理臨床研究紀要』第4号，pp.3-11.
- ＜学会発表＞「登校意欲を促すための早期対処のあり方16 — 学校登校意欲の発現を促す基礎的条件 —」○寺田道夫・瀬見井千尋，東海心理学会第58回大会，南山大学，5月.
- ＜学会発表＞「欧米の不登校研究の足跡から今日の不登校問題への示唆 その2」寺田道夫，日本人間性心理学会第28回大会，法政大学，8月.
- ＜学会発表＞「不登校の子どもの理解と早期対処 2 — 長期休業中における複合的対処法導入の効用の検証 —」寺田道夫，日本心理臨床学会第28回大会，明治学院大学，9月.
- ＜講演＞「子どもたちがやる気になる時」，郡上高校PTA教育セミナー，郡上高校，1月21日，29日.
- ＜講演＞「親が迷う時，子どもが迷う時 — 心が通うメッセージ —」，第2回郡上高校PTA教育セミナー，郡上高校，6月15日，22日，29日.
- ＜講演＞「子どもが自ら変わる時 — 不登校問題からの示唆 —」，南部学校教育会研修会，恩知小学校体育館，4月.
- ＜講演＞「子どもの心の理解と対処 — アセスメントの視点から —」，海津市教育委員会，海津市文化センター，8月.
- ＜講演＞「子どもがたち切る時，親がたち切る時」，多治見地区高等学校PTA連合会，セラトピア土岐，9月.
- ＜講演＞「親子のコミュニケーションの取り方 その1，その2」，多治見西高等学校，多治見西高等学校，11月6日，21日.
- ＜講演＞「親離れと子離れ — 子どもの意欲を育てるには —」，関高等学校PTAセミナー，関高等学校，11月.
- ＜講演＞「不適応生徒への理解と支援」，美濃地区高等学校教育相談研究協議会，武儀高等学校，11月.
- ＜講演＞「子どもがたち切る時，親がたち切る時」，北方小学校家庭教育学級，北方小学校，12月.

宮 本 邦 雄 (Miyamoto, Kunio)

- ＜論文＞「ラットにおける食物貯蔵行動の発達」宮本邦雄『東海学院大学紀要』2，pp.173-178.
- ＜学会発表＞「看護師の職業意識3」宮本邦雄，日本発達心理学会，日本女子大学，3月.
- ＜学会発表＞「子育て支援の相談業務におけるストレスとその関連要因」齋藤登志子・宮本邦雄，日本心理学会，立命館大学，9月.
- ＜学会発表＞「青年期の対人葛藤場面における対処方略」岩井千恵・宮本邦雄（共著者），日本心理学会，立命館大学，9月.
- ＜講演＞「親子関係と愛着の発達 — 愛着が子どもを救う —」宮本邦雄，東海学院大学公開講座，東海学院大学，11月.
- ＜その他＞「平成21年度岐阜県看護協会指導者研修会講師」宮本邦雄，岐阜県看護協会，岐阜県ふれあい会館，6～7月.

濱 田 美佐子 (HAMADA, Misako)

- ＜分担執筆＞『エミリー・ディキンソンワールド』重迫隆司他12名『金ヶ崎町教育委員会／金ヶ崎町立図書館エミリー・ディキンソン資料センター』, 浜田担当 pp. 29-34, 9月.
- ＜講演＞「原書で楽しむアガサ・クリスティーの世界よ, 永遠に! — 最後を暗示する始まりの描写」, 東海学院大学短期大学部生涯学習センター主催, 10月.
- ＜講演＞「原書で楽しむアガサ・クリスティーの世界よ, 永遠に! — 対比される登場人物と作品に生まれるリズム」, 東海学院大学短期大学部生涯学習センター主催, 10月.
- ＜講演＞「原書で楽しむアガサ・クリスティーの世界よ, 永遠に! — 馴染み薄い英語慣用表現の楽しさ」, 東海学院大学短期大学部生涯学習センター主催, 11月.
- ＜講演＞「原書で楽しむアガサ・クリスティーの世界よ, 永遠に! — 類型的人物が動き始める時 — 本格的小説世界」, 東海学院大学短期大学部生涯学習センター主催, 11月.
- ＜講演＞「原書で楽しむアガサ・クリスティーの世界よ, 永遠に! — 読者／登場人物の良心とサスペンスの作法」, 東海学院大学短期大学部生涯学習センター主催, 12月.

矢 澤 久 史 (YAZAWA, Hisashi)

- ＜論文＞「場面緘黙児に関する研究の展開」『東海学院大学紀要』2, pp.179-187.

下 内 充 (SHIMOUCHI, Mitsuru)

- ＜学会発表＞「Loanwords in Japanese and a Style of Japanese English」, The 15th International Conference of the International Association for World Englishes, Cebu Parklane International Hotel (Cebu City, Philippines), 10月.
- ＜学会発表＞「日本人英語とフォニックス」, 言語文化学会第23回大会, 愛知淑徳大学, 12月.
- ＜報告＞「英文学科・コミュニケーション学科の43年間を振り返る」今井昌彦, 井上端, 大野佳代子, 長谷部和子, 辻悦生, 熊崎雅夫 (共著者)『東海学院大学短期大学部紀要』, 第35号, pp. 87-104.

大 平 晃 久 (OHIRA, Teruhisa)

- ＜論文＞「戦前期の郊外住宅地開発と近代化 — 高松市郊外の挿頭丘住宅地を事例として —」『地域と環境』8・9, pp.363-376.
- ＜論文＞「ヘリテージ景観の復原に働く歴史意識 — 愛知県江南市の生駒屋敷を事例に —」『東海学院大学紀要』2, pp.113-120.
- ＜学会発表＞「名護屋城跡と近代の日本」, 第52回歴史地理学会大会・歴史地理学会, 神戸大学, 9月.
- ＜学会発表＞「記念碑と場所の関係 — バルリン・バイエルン地区「追憶の場」を事例に —」, 2009年人文地理学会大会・人文地理学会, 名古屋大学, 11月.

福 井 義 一 (FUKUI, Yoshikazu)

- ＜論文＞「ロールシャッハ・テストにおける父親・母親図版解釈仮説の妥当性に関する研究 — 図版評定法を用いて —」岡崎 剛・三宅由晃・森津 誠・山下景子・遠山 敏・岡田信吾・安藤 治 (共著者)『心理臨床学研究』26巻5号, pp.549-558.
- ＜論文＞「高目標設置は本当に適応的か? — 成人愛着スタイルを調整変数として —」『心理学研究』79巻6号, pp.522-529.
- ＜論文＞「解離のちから」『精神療法』35巻2号, pp.214-216.
- ＜論文＞「学校現場における短期間の構成的グループエンカウターの効果測定に関する研究 — 多次元尺度構成法 (MDS)による心理的距離の視覚化を用いて —」『東海学院大学紀要』2号, pp.161-172.
- ＜論文＞「ロールシャッハ・テストによるリソース・アセスメントの一例」『東海心理臨床研究 (東海学院大学附属心理臨床センター紀要)』4号, pp.53-61.

- <論文>「解離性体験尺度（DES）の使用についての一考察 — 青年期における解離性体験の頻度 —」『EMDR研究』1巻1号, pp.12-23.
- <論文>「臨床催眠とEMDRの併用と統合的使用 — 両者の出会いがトラウマ・ケアにもたらす可能性 — （大会長講演）」『臨床催眠学』10巻, pp.15-24.
- <論文>「解離性体験とアレキシサイミア傾向の関連」『臨床催眠学』10巻, pp.35-42.
- <論文>「催眠古書探訪その4 — 福来友吉が残したもの 催眠研究編 —」『臨床催眠学』10巻, pp.63-66.
- <論文>『特集 シンポジウム 臨床催眠と隣接療法』誌上討論 高石 昇・市井雅哉・櫻井佐紀子・中島 央・大谷 彰（共著者）『臨床催眠学』10巻, pp.30-.
- <学会発表>「心的外傷体験と解離傾向, 催眠感受性の関連」福井義一・野村早也佳, 第8回日本トラウマティックストレス学会, 東京女子医科大学, 3月.
- <学会発表>「職業性ストレスに対するTFT（思考場療法）のセルフケア実践と効果」森川綾女・山下由紀子・福井義一, 第8回日本トラウマティックストレス学会, 東京女子医科大学, 3月.
- <学会発表>「トラウマ関連障害における治療技法の多様化 — TFTの位置づけ —」福井義一, 日本TFT協会第2回カンファレンス, 品川区立総合区民会館, 7月.
- <学会発表>「EMDR導入を「しない」, または「遅延する」基準について — 複雑性トラウマや重篤な解離性障害の検出 —」福井義一, 日本EMDR学会第4回学術大会, 名古屋国際会議場, 8月.
- <学会発表>「青年期における親への愛着と一般他者への愛着が心理的健康に及ぼす影響の違い」福井義一・河合三奈子, 日本カウンセリング学会第42回大会, 活水女子大学, 8月.
- <学会発表>「認知された養育態度と愛着スタイル, 先延ばし傾向が抑うつに及ぼす影響」山下由紀子・福井義一, 日本心理学会第73回大会, 立命館大学, 8月.
- <学会発表>「共依存におけるアイスバーグモデルの妥当性に関する研究」武儀山珠実・福井義一, 日本心理学会第73回大会, 立命館大学, 8月.
- <学会発表>「自尊感情, 自己効力感, 本来感と心理的健康との関連」成瀬友貴美・福井義一, 日本人間性心理学会第28回大会, 法政大学, 8月.
- <学会発表>「養育態度の認知と成人愛着スタイルが自己動機に及ぼす影響」福井義一・成瀬友貴美, 日本健康心理学会第22回大会, 早稲田大学国際会議場, 9月.
- <学会発表>「自己動機の各下位側面が不安に及ぼす影響 — 構造方程式モデルを用いて —」成瀬友貴美・福井義一, 日本健康心理学会第22回大会, 早稲田大学国際会議場, 9月.
- <学会発表>「青年期における認知された親の養育態度と親への愛着, 一般他者への愛着が心理的健康に及ぼす影響の違い」河合三奈子・福井義一, 日本教育心理学会第51回総会, 静岡大学, 9月.
- <学会発表>「EMDRの活用2 — 難しい対象への適用 — : 解離性障害のクライアントに対するEMDRの準備作業（自主シンポジウム）」福井義一・市井雅哉（企画者）・大河原美衣・白川美也子・菊池安希子, 日本心理臨床学会第28会秋季対会, 東京国際フォーラム, 9月.
- <学会発表>「認知された親の養育態度とロールシャッハ反応の関係 — Symondsの養育態度尺度を用いて —」三宅由晃・福井義一, 日本心理臨床学会第28会秋季対会, 東京国際フォーラム, 9月.
- <学会発表>「虐待的養育環境と心身の解離がアレキシサイミア傾向を介して心身症状に及ぼす影響」福井義一, 日本臨床催眠学会第11回学術大会, 東京医科歯科大学, 10月.
- <学会発表>「臨床催眠の科学と実践 — 合流点を求めて — 解離性障害に対する催眠療法のエビデンス — （シンポジウム）」福井義一・高石 昇（企画者）・大谷 彰, 日本臨床催眠学会第11回学術大会, 東京医科歯科大学, 10月.
- <学会発表>「虐待的な養育環境が心身の不健康に及ぼす影響 — 精神的解離と身体表現性解離を介して —」野村早也佳・福井義一, 日本催眠医学心理学会第55回大会, 東洋学園大学, 11月.
- <講演>「反復性トラウマの子どもへの影響とそのケアについて」, 三重県健康福祉部, 三重県吉田山会館, 1月.
- <講演>「教育講演 ブリーフセラピー: 悪循環を絶つコミュニケーション技法」, 皮膚科心身医学研究会, 京都, 2月.
- <講演>「解離の取扱説明書: 再び」, 東海EMDR勉強会, 名古屋, 2月.
- <講演>「ソリューション・フォーカスト・アプローチ」, 山形サイコセラピー研究会, 山形, 2月.

- <講演>「ブリーフ・セラピーと学生への対応」, 大阪国際大学学生相談室主催, 大阪国際大学, 3月.
- <講演>「メンタルヘルス研究」, (株) イノアック, 愛知, 3月.
- <講演>「トラウマと解離の心理療法 — EMDRと臨床催眠を用いて —」, 愛知心身医学研究会, 愛知医科大学, 4月.
- <講演>「メンタルヘルス研修」, 中央労働災害防止協会, 大阪, 6月.
- <講演>「メンタルヘルス研修」, (株) イノアック, 愛知, 9月.
- <講演>「家族システムから見た不登校の短期的援助」, 岐南町立西小学校, 岐南町立西小学校, 10月.
- <講演>「メンタルヘルス研修」, (株) イノアック, 東京, 10月.
- <講演>「ソリューション・フォーカスト・アプローチ初級研修」, 三重県健康福祉部, 三重県.
- <講演>「メンタルヘルス研修」, (株) イノアック, 愛知, 11月.
- <講演>「解離性障害や複雑性PTSDのクライアントに対するEMDRのスクリーニング」, 東海EMDR勉強会, 名古屋, 11月.
- <講演>「ここまで分かった解離の謎 — トラウマ・ケアにおける解離の対応と活用 —」, EMDR臨床セミナー, 高山, 12月.
- <講演>「メンタルヘルス研修」, (株) イノアック, 愛知, 12月.

小 河 妙 子 (OGAWA, Taeko)

- <学会発表>「パーソナリティと状況がギャンブルゲーム中の選択行動に及ぼす影響」 小河妙子・南塚優子, 日本心理学会, 立命館大学, 9月.
- <学会発表>「他者との関係性及び取得される視点が感情推測プロセスに及ぼす影響」 野村祐子・小河妙子・柏野牧夫・野村理朗, 日本心理学会, 立命館大学, 9月.

大 澤 香 織 (OSAWA, Kaori)

- <その他>「「外傷体験想起時の認知・行動と外傷性ストレス反応の関連モデルに基づく心理学的介入の効果に関する研究」活動報告」『東海学院大学大学院附属心理臨床センター紀要』第4号, pp.90-.
- <その他>「「交通事故被害者を対象とした精神疾患の発症予防プログラムの 効果の検討」活動報告」『東海学院大学大学院附属心理臨床センター紀要』第4号, pp.91-.
- <学会発表>「外傷体験想起時に対する認知的評価と対処方略が外傷性ストレス反応に及ぼす影響 — 臨床群を対象としたモデルの検討 —」 加茂登志子, 氏家由里, 坂野雄二, 日本トラウマティック・ストレス学会第8回大会, 東京女子医科大学, 3月.
- <学会発表>「ネガティブな夢がうつ状態と日常生活機能に及ぼす影響について — 大学生を対象として —」 谷島郁子, 日本感情心理学会第17回大会, 徳島大学, 5月.
- <学会発表>「ストレス負荷による食欲の増減がコーピングとストレス反応に及ぼす影響について」 大松咲子, 日本心理学会第73回大会, 立命館大学, 8月.
- <学会発表>「Influences of Cognitive Appraisal and Coping Strategies toward Recalling Traumatic Memories on Traumatic Stress Responses in psychiatric outpatients with PTSD symptoms.」 Toshiko Kamo, Yuji Sakano, The 43rd annual convention of the Association for Behavioral and Cognitive Therapy, New York, 11月.
- <講演>「職場のメンタルヘルス — ストレスとうまくつきあうために —」, 岐阜市役所商工観光部産業振興課 (平成20年度岐阜市産学官連携事業・岐阜市ビジネススクール), ハートフルスクエア G, 10月.

明 翫 光 宜 (MYOGAN, Mitsunori)

- <論文>「高機能広汎性発達障害のロールシャッハ反応に関する研究 — 発達障害を捉えるロールシャッハ法の構築」『中京大学大学院心理学研究科 博士論文』.
- <論文>「治療関係がもたらす情緒的成長について」『東海心理臨床研究』, 第4号, pp. 63-69.
- <論文>「PFスタディ反応における広汎性発達障害児と定型発達児の比較研究」 満田健人・明翫光宜・辻井正次 (共

- 著者)『小児の精神と神経』, 49 (3), pp. 221-230.
- <論文>「高機能広汎性発達障害のロールシャッハ研究」『新アスペハート』, 22号, pp. 140-144.
- <論文>「ノート・板書の取り方」『児童心理』, 12月号臨時増刊, pp. 55-60.
- <講演>「名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋講演会, NHKハートフォーラム「実は身近な発達障害～らしさが活きる青年期」パネリスト, 名古屋市鯉城ホール, 1月.
- <講演>「コミュニケーションを伸ばすために」, 発達障がい理解・研修セミナー 2008～世界自閉症啓発デー 2009.4.2に向けて～【半田会場】、クラシティ半田, 2月.
- <シンポジウム>「自主シンポジウム『発達障害児のアセスメントと二次形成的アプローチ: 自我構造の評価と個別支援・教育支援および家族支援による』」廣利吉治・明翫光宜・牧野光里・窪田恭子・石曉玲 (共著者), 第21回日本発達心理学会, 3月, 日本女子大学.
- <講演>「障がい特性の理解と本人の自己理解」, アスペ・エルデの会“地域システム移行10周年”記念セミナー 大府会場, 10月
- <講演>「ペアレントトレーニング基礎セミナー」, アスペ・エルデの会“地域システム移行10周年”記念セミナー 大府会場, 10月
- <ワークショップ>「ワークショップ: ASDの子ども達の気分を切り替えるアプローチ」, 日本発達障害ネットワーク主催: 次世代育成と発達障害児者支援の体験博覧会2009, 愛知東邦大学, 10月

斉 藤 由 里 (SAITO, Yuri)

- <著書>「教員免許更新講習テキスト教職リニューアルー「教育の最新事情」を効果的に学ぶためにー」教員免許状更新講習事業コンソーシアム (編著)『ミネルヴァ書房』, pp.57-59.
- <論文>「Frontal brain activation in premature infants' response to auditory stimuli in neonatal intensive care unit.」Yuri Saito, Rie Fukuhara, Shiori Aoyama, Tamotsu Toshima (共著者)『Early Human Development』85, pp.471-474.
- <論文>「発達障害児へのソーシャルスキル訓練とその効果に関する脳機能計測の検討」『発達研究』23, pp.49-56.
- <学会発表>『「幼稚園のママ友」との付き合い方とストレス対処方略の関連」斉藤由里, 堀匡, 日本発達心理学会第20回大会, 日本女子大学 3月, 3月.
- <学会発表>「NIRSを用いた単純課題と二重課題における脳活動の検討ーオドボール課題を使用してー」斉藤由里, 伊藤君男, 日本心理学会第73回大会, 立命館大学, 8月.
- <学会発表>「説得情報の思考過程における脳活動と認知反応の関連の検討ーNIRSを使用してー」伊藤君男, 斉藤由里, 日本説得交渉学会第2回大会, 昭和女子大学, 8月.
- <学会発表>「他者観察が非洞察問題の解決に及ぼす影響」, 日本教育心理学会第51回大会, 静岡大学, 9月.
- <講演>「乳幼の非言語的情報処理における発達神経心理学的研究」, 長崎大学大学院セミナー, 長崎大学, 1月.
- <講演>「赤ちゃんはなぜ「飽きるー飽きない」のか?ー情動・認知の発達神経心理学的アプローチー」, 日本心理学会第73回大会ワークショップ, 立命館大学, 8月.

野 田 理 世 (NODA, Masayo)

- <論文>「気分がカテゴリー一致情報, 不一致情報処理に及ぼす影響: 実験直後と遅延後の記憶再生を用いた検討」『社会心理学研究』, 印刷中.
- <論文>「ポジティブ気分と一般知識構造を用いた情報処理プロセス: 適応レベルからの考察」『吉備国際大学研究紀要 (社会福祉学部)』19, pp.81-87.
- <学会発表>「Affective forecasting and motivation: A comparison of motivation levels」Noda, M., 10th Conference of the Society for Personality and Social Psychology, Tampa, FL., 1月.
- <学会発表>「Affective Forecasting and Motivation to learn: A comparison of test score prediction」Noda, M., 11th European Congress of Psychology, Oslo, Norway, 7月.
- <学会発表>「高校生の進路探索動機に関する探索的検討: 進路選択に関連する授業と感情予測による影響」野田理世,

日本教育心理学会第51回総会，静岡，9月。

＜学会発表＞「感情予測が防災行動に対する動機づけに及ぼす影響」野田理世・元吉忠寛，日本社会心理学会・日本グループダイナミックス学会第56回合同大会，大阪，10月。

小 西 瑞 穂 (KONISHI, Mizuho)

＜論文＞「Schizophrenic patients have a preference for symmetrical rectangles: A comparison with preferences of university students.」Yumi Iwamitsu, Orika Mikan, Mizuho Konishi, Tatesuke Aoki, Masako Okawa, and Naoto Yamada (共著者)『International Journal of Psychiatry in Clinical Practice』vol.13, pp.147-152.

＜論文＞「自己愛人格傾向のパーソナリティ構造とそのストレス過程の検討」『同志社大学大学院文学研究科博士論文』。

＜学会発表＞「アレキシサイミア傾向者における表情認知能力の検討」秋定有紗・小西瑞穂・山田尚登・佐藤 豪，第104回近畿精神神経学会，大阪医科大学，2月。

＜学会発表＞「不登校生徒を持つ親の会の立ち上げと取り組み ― 学校との協働 ―」小西瑞穂・山田尚登，心理教育・家族教室ネットワーク第12回研究集会，ピアザ淡海，3月。

＜学会発表＞「抗うつ薬の処方により問題行動が著明に改善した，反抗挑戦性障害の一例」.稲垣貴彦・小西瑞穂・山田尚登)，日本思春期青年期精神医学会第22回大会，法政大学，9月。

＜学会発表＞「社会評価状況における自己愛人格傾向のストレス過程」小西瑞穂・佐藤 豪，日本健康心理学会第22回大会，早稲田大学国際会議場，9月。

＜学会発表＞「うつ病の診断と治療により問題行動の著明な改善を得た反抗挑戦性障害の一例」.稲垣貴彦・小西瑞穂・山田尚登，第29回日本精神科診断学会，ハイアットリージェンシー東京，10月。

＜学会発表＞「The effect of SST for students with trait of pervasive developmental disorders and psychoeducation for their parents.」Konishi Mizuho, Association for Behavioral and Cognitive Therapies 43rd Annual Convention, New York Marriott Marquis, 11月。

＜講演＞「発達障害」小西瑞穂，光泉中学高等学校，光泉中学高等学校，6月。

＜講演＞「うつ病とSASとの比較 ― HAM-D構造化面接SIGH-Dを用いて ―」小西瑞穂，第6回アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34回定期学術集会・第16回日本時間生物学会学術大会合同大会 シンポジウム，大阪国際会議場，10月。

＜その他・研修会講師＞「標準版家族心理教育研修会」香月富士日・土屋 徹・小西瑞穂，日本心理教育・家族教室ネットワーク，名古屋市立大学，12月。

人間関係学部子ども発達学科

藤 井 康 寿 (FUJII, Kouju)

＜論文＞「Perl言語を用いた食事バランス評価システムの開発と適用」西村友里，中川建治（共著者）『メディア教育研究』6, pp.D1-D9.

＜学会発表＞「新入生の自己啓発と交流の場を与えるICT活用の実践」藤井康寿，栗本奈生子，平成21年度 全国大学IT活用教育方法研究発表会 1次選考発表会，社団法人 私立大学情報教育協会，東京私学会館，7月。

富 田 理 恵 (TOMITA, Rie)

＜分担執筆＞「ブリテンにおける1534年と1560年 ― 二つの宗教改革による新たな連携と断絶 ―」山本信太郎（共同執筆），森田安一編『ヨーロッパ宗教改革の連携と断絶』教文館，pp.75-90.

＜学会報告要旨＞「歴史のなかのスコットランド ― イングランド関係」(第32回 日本イギリス哲学会 研究大会 (2008年3月 帝京大学)シンポジウムI「イングランド ― スコットランド合同のインパクト ― 合同300周年記念 ―」第一報告，『イギリス哲学研究』)日本イギリス哲学会発行，第32号，pp.153-155.

高山 育子 (TAKAYAMA, Ikuko)

＜学会発表＞「日本社会における子どもの地位と女性の就業 ― 都道府県別データを用いた1960年-2005年の分析から」, 高山育子, 日本教育社会学会第61回大会, 早稲田大学, 9月.

＜学会発表＞「ブラジル人親子支援プログラムの実践報告」, 高山育子・長谷部和子・杉山喜美恵, 全国保育士養成協議会第48回研究大会, 東北福祉大学, 9月.

居崎 時江 (IZAKI, Tokie)

＜著書＞「保育内容 健康」民秋言・穂丸武臣, 編著『北大路書房』.

＜著書＞「保育内容・保育方法総論の理論と活用」上野恭裕, 編著『保育出版社』.

＜著書＞「保育内容「健康」」村岡眞澄 編著『福村書店』.

＜論文＞「岐阜県東濃地区における子育て支援センターの現状と課題 ―「子育て支援者トーキング研修」を通じて―」今村民子, 高田全代, 徳広圭子, 今村光章 (共著者)『岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究』11, pp.153-168.

＜論文＞「岐阜県岐阜圏域における子育て支援センターの現状と課題 ―「子育て支援者トーキング研修」を通じて―」今村民子, 高田全代, 徳広圭子, 今村光章 (共著者)『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』41, pp.119-136.

＜その他＞エッセイ「自分と向き合う目が大切～「アラフォー世代」のプロ野球選手から学ぶ」『月刊食べ歩きとうかい・北白川書房』10月号, pp.10-11.

＜学会発表＞「幼児の体力, 運動指導に関する保育者の意識調査」, 日本保育学会, 千葉大学, 5月.

＜学会発表＞「Confirmation regarding Physical Fitness based on Polynomial Regression of Body Muscle Percentage for BMI in Korean Junior High School students」Yuma HANAKI, Katsunori FUJII, Nozomi TANAKA, Toru ISHIGAKI, Seol-Hyang KIM, Judong KIM, Tokie IZAKI, 日本教育医学会, 韓国・水原市 慶熙大学校 国際Campus, 8月.

＜展覧会＞「第43回企画展 戦国武将の勝負飯」, タルイピアセンター, 岐阜県垂井町タルイピアセンター, 7月18日～9月6日.